

第三十三回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪 「よこはま古民家」とその周辺歴史探訪

平成20年10月3日(金) (集合;市営地下鉄「センター南駅」改札口10時・解散14時頃。
せせらぎ公園古民家が第一木曜日休館のため、今回に限り3日(金)です、念為。

「Ⅲ」せせらぎ公園・古民家(休日;第1木曜日、祝日の場合は翌日、12/29~1/3)

指定管理者;せせらぎ公園古民家管理委員会

住所;都筑区新栄町17・電話;045-592-6517・FAX;045-594-1649)

最寄り駅;市営地下鉄線「仲町台駅」徒歩8分・ただし集合は「センター南駅」です。

特徴;江戸時代中期~後期の古民家と長屋門移築、そば打ち、炭焼き等の体験教室も通年開催、池とスイレンの館。

行程;センター南駅→地藏堂→茅ヶ崎観音堂→茅ヶ崎城趾→正覚寺→せきれいの道→せせらぎ公園
→昼食(蕎麦茶房「楽」)→古民家→地下鉄仲町台駅着解散。

散策場所と内容

- 1・地藏堂・庚申塔(茅ヶ崎町491)通称堰のお地藏さん・昔は早濑川がこの辺を流れ、取水でこの名が丸彫地藏立像(享保8癸卯天=1837)・トタン屋根の祠に庚申塔(寛政12庚申歳)。
- 2・茅ヶ崎観音堂(茅ヶ崎東町3-25・小机観音33札所19番・管理寿福寺)

「新編武蔵風土記稿」によると「東大寺建立に貢献した行基菩薩が、諸国を廻歴したとき長門国(山口県)志賀の荒磯で靈示によるお告げにより、1寸8分(5.5cm)の金無拓の観音像を入手した。奉持して八葉八谷(現茅ヶ崎町大原)に安置した。その後寛平2年(890)新谷(アヲト)に堂宇を建立したが、132年後の治安2年(1022)天災により烏有に帰した。時の領主多田山城守行綱が守護仏として堂を建て、新たに3寸程の守護仏を胎内仏として、享保12年(1727)6尺8寸(2m6cm)の正観世音菩薩像を作り安置した。

水盤・俵石(力石)・石仏群8基(内、堂守の墓3基)・出羽三山諸国巡礼塔・馬頭観音碑(延享5戊辰)・馬頭尊塔(文字塔)・市指定名木古木銀杏・手洗鉢(文化13丙子年)・力石(御影石・寛文拾年戌9月廿口口寛文拾年戌9月廿口口)・花崗岩(御影石・寛文拾年戌9月廿口口日)。

庚申塔・地藏像（茅ヶ崎城入口傍ら二つの小祠，手前1基，奥側3基庚申塔，地藏像，）

庚申供養塔（1面3眼6臂青面金剛立像・享保4己卯ノ亥）種字は五大尊中の降三世明王を刻印現在でも講を絶やさないと言う。

3・茅ヶ崎城趾（茅ヶ崎町630近く・バス停吾妻山から茅ヶ崎橋を渡って進むと案内板・直線連郭方式中世城）

標高30m，約200m×130mの広さの丘陵上，一部は畑，大部分は竹・雑木林・中世山城の遺構を留めている。東西に三つの郭（土塁や堀で囲まれた区画）が並び，中央の郭（東西70m南北間は西側32m東側18mの歪んだ方形）の北に更に付属郭がある。中央が本丸，西側が西の丸と考えられる。空堀は小机城よりやや狭く，虎口（コグチ・城の出入口）も単純に土塁を切った構造などは小机城より古い様式だ。

北条氏綱が小机城を改修したころ，小机城の支流として，此の茅ヶ崎城を築き，小机衆の座間氏などを城代に置いたらしい。城趾の一角にある聖観音堂は城代多田行綱が武運長久と子孫繁栄を祈って供養したと伝う。城の周囲を空堀が巡り，空堀の巾が15～18mであるのは当寺の鉄砲・弓の射程距離が25m若で，この巾が最も狙いやすい巾と言われている。本丸北に一段低く虎口の馬出し状に東西62m南北50mの2の丸に当たる北郭がある。

4・正覚寺（天台宗・長窪山總持院・本尊，虚空菩薩像坐像，春日作・地神塔，国神立像浮彫装束姿文化13丙子年）

村民，清左衛門が先祖の起立する所と伝うが，開山等不詳，慶安二年（1649）4月寺領5石1斗の御朱印を賜るとある。天正18年（1590）に豊臣秀吉からの禁制の札が寺宝として伝わる。

薬師如来安置，伝恵心僧都作・山王日吉神社（山岳信仰・山林業）祭神大山咋（イノ）神と，大鷲大明神（産業繁栄・子孫繁栄・出世開運・商売繁盛），祭神天児屋根命を合祀した社殿がある。

念仏供養塔（宝暦3酉）・地藏庚申塔（延宝6年午）・地藏碑（嘉永2酉年）・庚申塔（天延宝4年辰）・頭光背地藏像（享保10乙巳年）・地藏像（宝暦6丙年）・六地藏他（安永3申午）・延命地藏像（宝暦5乙亥）・生命の泉の碑（第二次大戦末期学童疎開に寺が使われ，児童達が利用した井戸・ホテルの棲息するせせらぎ。

廻国供養塔・廻国信仰

六部（六十六部廻国行する人・白衣，背中に仏像の入った厨子や笈櫛ウツを背負い合力を求め歩く）弥勒菩薩；釈迦如来滅後56億7千万年後兔率天（トツテン）からこの世に下生して衆生を救済するという弥勒六部經による信仰で弥勒菩薩の世となるまで，悪魔下道の手から經典を守り後世に伝えようと經典を金属や須恵器等の容器に収め，山の尾根や国々の靈場に奉納した。この經典を埋蔵したものが経塚である。このように元來經典を後世に伝える目的を持った納経も，後に特定の目的を果たすための供養へと変化していった。

信仰者は大乘妙典と呼ばれる法華經を66部作り66ヶ所の靈場に保存する目的で一部ずつ各靈場に納経するために国々によって建てられた石塔が「廻国供養塔」である。

5・せきれいの道（市営地下鉄線仲町台駅徒歩7分）

茅ヶ崎公園からせせらぎ公園，早渕川を結ぶ道。両側は住宅地だが，斜面緑地を生かした緑道は住宅地より低いので静寂に包まれている。

6・せせらぎ公園

水鳥が泳ぐ大きな池の周りには桜の大木が30本。7月頃には池一面にスイレンの花が。

7・古民家（AM9時～PM5時・月・水・金休館・045-592-6517・見学団体15名以上要予約）

江戸時代中期から後期の民家を復元。タキギヨケと呼ばれる炉端のある横浜独特の民家。伝承行事や自然の恵みいっぱいイベントやホラル狩りも。

（1）主屋（旧内藤家住宅・江戸時代中期～後期建築年代と推定）

内藤家は，もとは京都の出身で，大坂夏の陣の功績により荏田に領土を与えられ，その後現代まで続く旧家です。旧内藤家旧宅は昭和55年にせせらぎ公園内に当初の形式に近い形で復元されたものです。

（2）長屋門（旧小杉家）

この長屋門は東京都目黒区にあったものです。当主が横浜に深い関わりがあったため，希望により横浜市に長屋門の長屋である脇部屋を取り除いた門部分だけ主屋に合わせた形で移築されました。

第三十三回行程案内図



横浜市 都筑区

東方町